



報道関係各位
【Press Release】

2012年5月10日

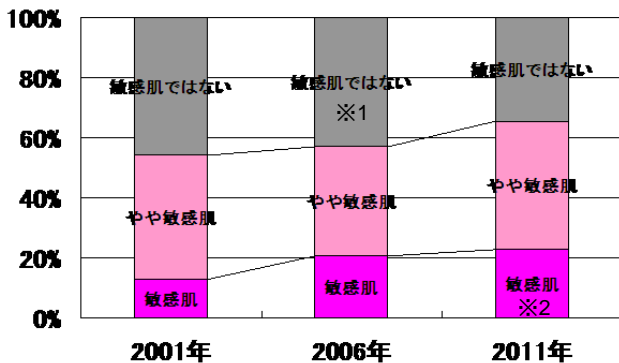
「敏感肌研究所 Supported by Avène」発足

敏感肌研究の知見を活かして 増加する敏感肌人口を背景に、敏感肌の QOL 向上を目指した情報発信

「敏感肌研究所 Supported by Avène」が、ディディエ・ゲレロ(アベンヌブランド顧問皮膚科医)を所長として、本日 5 月 10 日に発足致します。敏感肌に関する正しい理解の促進や最新の知見の提供、適切なケア方法の啓発などを行うことが発足の目的です。アトピー性皮膚炎、乾癬、心身医学、スキンケアなどがご専門で、長年、日本の臨床現場で多くの患者さんを診てこられた東京慈恵会医科大学 皮膚科の上出 良一教授をアドバイザーに迎えます。

近年、現代人は、気候の変動やライフスタイルの変化により、ますます肌への負担を強いられるようになりました。例えば、東京の湿度は年々低下傾向にあります(日本気象協会調べ)。また、女性の社会進出で、ストレスや日々の疲労、睡眠不足や不規則な生活が増えていると考えられます。こうした変化の結果、今、“私の肌は敏感”と感じる人が増えてきています(図1)。一方、肌悩み(乾燥)を解消するため乾燥性敏感肌用スキンケア商品を使用しても、4割程度がその効果を実感できていないというデータもあります(図2)。近年の敏感肌人口の増加に伴い、敏感肌の症状・意識も多様化している中、もはや『敏感肌』はメーカー発の商品情報だけでは解決できない問題であり、スキンケア商品の情報だけでなく、肌そのものやライフスタイルに対する正しい情報が求められていると考えられます。

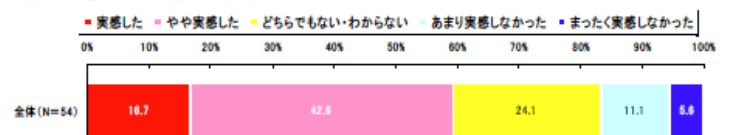
図1 敏感肌調査 20~50 代女性の
自身の肌に対する自己認識



※1 あまり思わない+そうは思わない
※2 とても敏感である+敏感である
(2001年:資生堂BS研定量調査
2006年・2011年:SLI調査)

図2 乾燥性敏感肌用スキンケアの効果

対象: 乾燥性敏感肌用スキンケア商品の使用経験者



(2009年 総合企画センター大阪調べ)

こうした背景から、フランスの製薬メーカーであり、敏感肌用スキンケアブランドを世に送り出してきたピエール ファーブル社が、これまで敏感肌やそのスキンケアについての研究を進めてきた知見を活かし、“商品の販売だけにとどまらない活動を”、という想いで、当研究所を発足することと致しました。敏感肌に関する正しい理解の促進や最新の知見の提供、適切なケア方法の啓発などを通じ、敏感肌の悩みを抱える人たちのQOL向上をサポートしたいと考えています。

今後は、一般生活者向けのイベントやセミナー開催、Facebookを通じた情報発信、報道関係者向けの定期的なシンポジウムの開催などを予定しております。ピエール ファーブル社の長年の研究成果や知見を情報発信に役立てていくと共に、医師を始めとする肌の専門家や女性のライフスタイルの専門家など外部の有識者をメンバーに迎え、敏感肌で悩む方のニーズに合った多様な情報発信、サポートを目指していきます。

「敏感肌研究所 Supported by Avène」概要

■正式名称:

敏感肌研究所 Supported by Avène

■設立目的:

「敏感肌」の悩み改善に役立つ情報を提供し QOL 向上をサポートする

■活動内容:

1. 「敏感肌」の悩みを改善するため、最新情報の発信や適切なケアの啓発を行う
2. 「敏感肌」に関する正しい理解を促進するため、外部の専門家と協力し、「敏感肌」における最新の知見や情報を提供する

■設立年月日:

2012年5月10日

■構成メンバー:

所長: ディディエ・ゲレロ (アベンヌブランド顧問皮膚科医)

メンバー: ピエール ファーブル ジャポン 商品・学術部スタッフ

■アドバイザー:

上出良一先生 (東京慈恵会医科大学皮膚科 教授)

■情報発信サイト:

敏感肌研究所 公式 Facebook http://www.facebook.com/AvèneJapan/app_277998618954298

※本日の発足記念シンポジウムの様子は Ustream 中継され、アーカイブとしても保存されます。

<http://www.ustream.tv/channel/avene>

■ロゴ:



敏感肌研究所

Supported by Avène



敏感肌研究所

Supported by Avène

<ロゴに込めた想い>

敏感肌の悩みを改善するために、役立つ情報をお伝えする研究所。

そのコンセプトを明解に表現するため、化学の分子記号をモチーフにビジュアル化しました。

唯一無二の自然の力、「アベンヌ温泉水」をベースに、

最先端の皮膚科学研究やテルマリズムセンターのケア実績、

ドクターや有識者の意見などを有機的に結びつけていく。

そんな広範な活動をシンボリックに象徴しています。

マークカラーは、清浄な温泉水を印象づける「アクアブルー」。



ディディエ・ゲレロ

敏感肌研究所 所長
アベヌブランド顧問皮膚科医

モンペリエ大学医学部卒
地方病院にてインターン
モンペリエ病院にてインターン

1982年、皮膚科専門医、免疫アレルギー学専門医、
寄生虫学専門医の資格取得
1982年、ベジエにて開業
1986～1989年、病院勤務および教育責任者

現在アベヌブランドの顧問皮膚科医。皮膚科医として開業も継続。
ピエール ファーブル グループでの仕事の中心は、アベヌテル
マリズムセンターでの治療の確立、治療客のフォロー、疾患と
アベヌ温泉水についての臨床研究、薬理臨床研究。
精神科診察の資格も持つ。



上出 良一

敏感肌研究所 アドバイザー
東京慈恵会医科大学皮膚科 教授

1973年、東京慈恵会医科大学卒業後、同皮膚科入局。
皮膚科・形成外科で研修。
1981年より、2年間ニューヨーク大学メディカルセンターならびに
カリフォルニア大学サンディエゴ校メディカルセンター皮膚科研究員
として光線過敏症の研究に従事。
2005年より、東京慈恵会医科大学皮膚科学講座教授。
2007年より、東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科診療部長。

専門分野は光皮膚科学、特に光線過敏症。
力を入れている分野はアトピー性皮膚炎、乾癬、心身医学、褥瘡、
スキンケア。

学会活動は日本皮膚科学会(代議員)、日本研究皮膚科学会
(評議員)、日本光医学・光生物学会(理事)、光皮膚科学研究会
代表世話人、日本皮膚科心身医学会(理事長)、日本褥瘡学会
(常任理事)、慈恵医師会会長。

